

## 休日も公共交通を

休日のライフスタイル(クルマ利用)もチェックしてみませんか。

休日編

例えば…

お出掛けの  
ときに

公共交通機関を利用すると、渋滞に巻き込まれることがなく、目的地までラクラク到着。到着時刻も想定しやすく、目的地での時間を有効に使うことができますね。

お買い物の  
ときは

日用品は近所のスーパーで済ませ、遠方へ買い物に行く場合は公共交通機関を利用すると二酸化炭素排出量がグンと減少します。



## バスの定期をお持ちの方は さらに ココチェック! 休日の公共交通利用が、おトク! 環境(エコ)定期券制度

休日に普段使っているバスの定期券を提示すると、本人以外の家族も割引される制度です。

例えば、390円までの区間であれば、同伴の家族は大人100円、

子供50円で利用することができます。

利用方法は、降車時に、乗務員に通勤定期券を提示し

ポイント!

**「環境(エコ)定期です。同伴者は○人です。」と申し出ればOK。**

適用路線や対象者、適用日など詳しい情報は神姫バスのホームページをご覧ください。

[http://www.shinkibus.co.jp/rsn/rsn\\_special.html](http://www.shinkibus.co.jp/rsn/rsn_special.html)

神姫バス 環境定期

検索



### 鉄道とバスでエコライフ —みんなで乗ろう、公共交通—

発行年月: 平成25年3月

発行: 姫路市

編集: 姫路市都市局交通計画室

〒670-8501 姫路市安田四丁目1番地

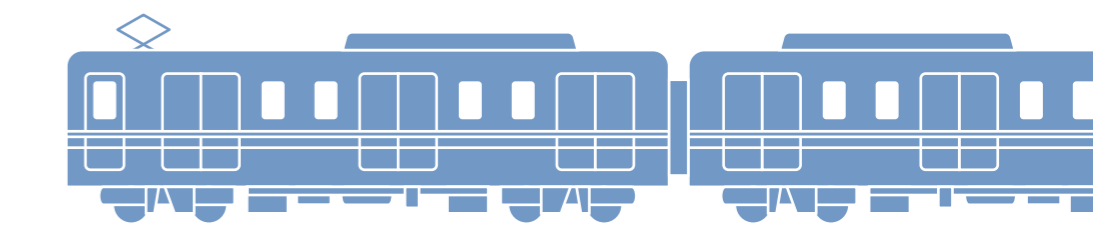
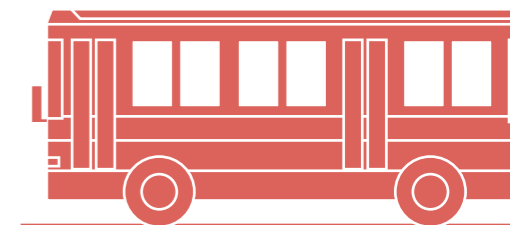
TEL 079-221-2465 ・ FAX 079-289-0588

E-MAIL kotukeikaku@city.himeji.hyogo.jp

# 鉄道とバスで エコライフ みんなで乗ろう、公共交通

Mobility  
Management

ecology  
life



## 公共交通の利用者数が減っています

マイカーを複数台所有する世帯が珍しくなくなった現代。公共交通利用者数は年々減少し、2011年度(平成23年度)の利用者数は、20年前の1991年度(平成3年度)に比べ18%も減少しています[図-1]。姫路市においても「利用者数の減少→利便性の低下(運行本数の減少や値上げなど)→さらなる利用者数減少」といった“負のスパイラル”に陥るリスクが高まりつつあります。このまま利用者数の減少が続くと、路線の廃止や縮小など公共交通事業そのものの維持が難しくなることも考えられます。

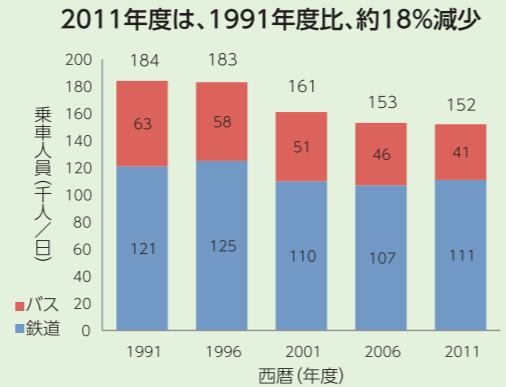


図-1 市内の鉄道、バス乗車人員の推移 (出典) 姫路市統計要覧

### 姫路市では、大切な公共交通を維持するため、利用促進に取り組んでいます。

#### 利用促進 3つの柱

- 1 利便性向上(鉄道・バスの公共交通の機能強化や駅前広場の整備を進めます)
- 2 利用環境改善(乗り継ぎ・乗り換えを改善します)
- 3 参画と協働の推進(交通事業者・行政・市民が協働で利用促進に取り組めます)

## 公共交通のメリットをチェック!

### 1 環境にやさしい

日本の二酸化炭素排出量のうち、運輸部門からの排出量は約20%。その運輸部門のうち88.1%が自動車から排出されています。一方、鉄道やバスは自動車に比べて輸送効率が良いため、二酸化炭素排出量が少なく、地球温暖化防止に大きく貢献できます。交通機関別の二酸化炭素排出量(1人を1km運ぶのに排出する二酸化炭素量)は、[図-2]のようになります。

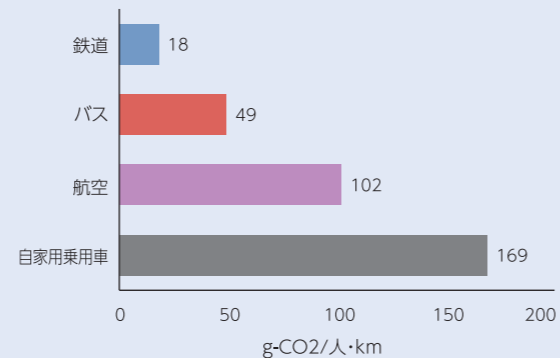


図-2 交通機関別二酸化炭素排出量(平成22年度) (出典) 国土交通省HP

### 2 健康に良い

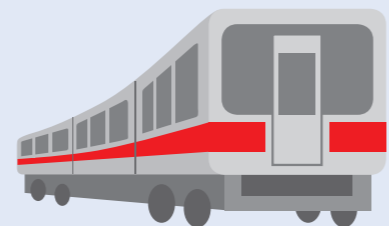
鉄道やバスでの通勤は、クルマ通勤の約4倍のカロリーを消費します。【出典:厚生労働省・健康づくりのための運動指針2006】そのため、忙しい現代人の健康づくりにも役立つと考えられます。

### 3 安全性が高い

鉄道で事故に遭う確率は、自動車の約1/400。【出典:交通安全環境研究所HP】比較的安全に通勤することができます。

### 4 定時性が高い

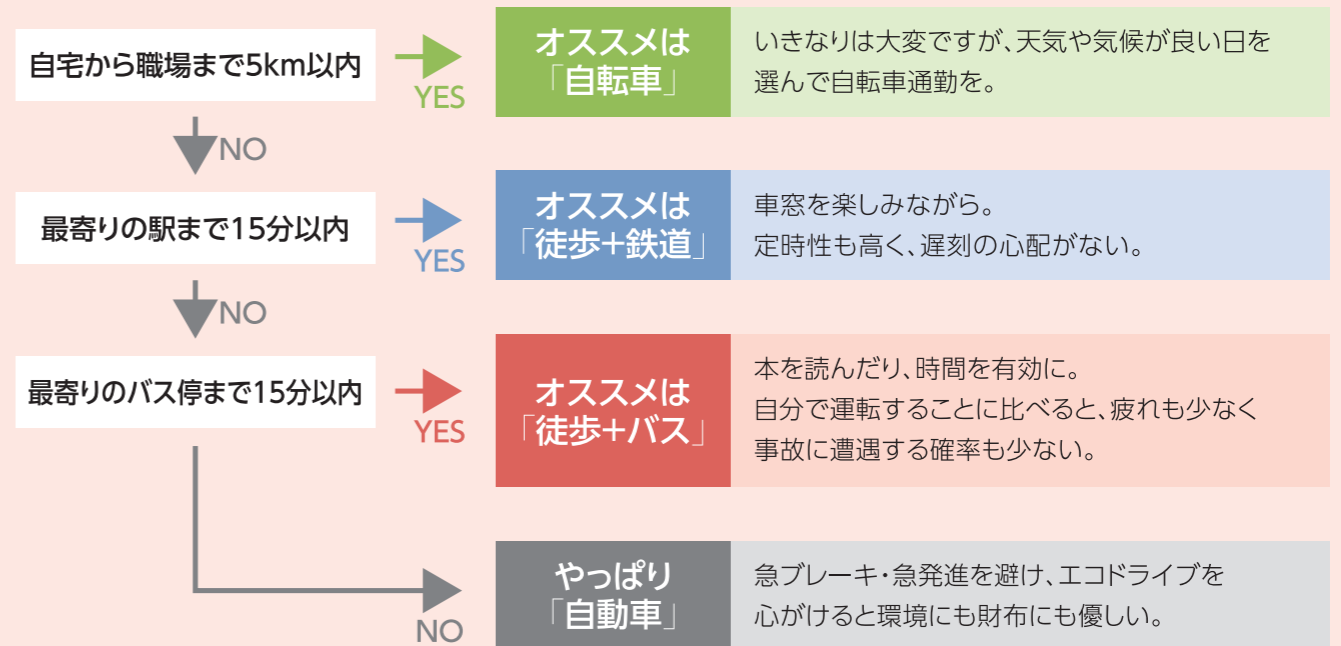
鉄道は交通渋滞と無縁。予定した時刻に到着することができ、時間と気持ちに余裕が生まれます。



## 公共交通を、もっと利用しよう

平日編

まずは、通勤交通手段を見直してみよう。



## 通勤の交通手段を変えると二酸化炭素の排出量が確実に少なくなります。

通勤時に排出している二酸化炭素量を具体的にチェックしてみましょう。

自宅から会社までの距離を測ってみましょう。測った距離に交通機関別の二酸化炭素排出量をかけて、通勤で発生する二酸化炭素を計算してみてください。



$$\text{自宅から会社までの距離: km} \times \text{交通機関別二酸化炭素排出量: g-CO2/人・km} = \text{二酸化炭素排出量: g-CO2/人}$$

例えば...

$$\text{自動車の場合} \quad \text{ } \text{ km} \times 169 \text{ g-CO2/人・km} = \text{ } \text{ g-CO2/人}$$

$$\text{バスの場合} \quad \text{ } \text{ km} \times 49 \text{ g-CO2/人・km} = \text{ } \text{ g-CO2/人}$$

$$\text{鉄道の場合} \quad \text{ } \text{ km} \times 18 \text{ g-CO2/人・km} = \text{ } \text{ g-CO2/人}$$

通勤に鉄道やバスの公共交通を利用することで、二酸化炭素排出量をしっかりと減らすことができます。